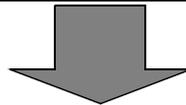


新たな家畜改良増殖目標（第10次）の検討状況について

－めん羊・山羊－

現 状 と 課 題

- ・ 純粋種の減少、種畜不足が危惧されている中、優良な種畜の確保とその広域利用が必要
- ・ 畜産物利用だけでなく、除草、観光、ふれあい等の多様な利活用のニーズはあるものの、飼養管理技術を持つ者が少ない
- ・ 客観的な能力評価手法の活用と改良への応用が必要



新たな改良増殖目標 （案）のポイント

【能力に関する目標】

① めん羊

- ・ 発育性、増体性及び枝肉歩留まりの向上（母羊の年齢・産子数等を補正した90日齢時体重の目標を設定）
- ・ ほ育能力（1腹当たり離乳頭数）の維持、受胎率の向上

② 山羊

- ・ 乳用における乳量の向上（1日当たり泌乳量等から算出した250日泌乳量の目標を設定）、乳成分の維持・向上
- ・ 肉用における発育性、増体性及び枝肉歩留の向上
- ・ 受胎率の向上、肉用におけるほ育能力等の向上

【能力向上に資する取組】

- ・ 客観的な能力評価手法の活用、データ収集と改良手法への応用
- ・ 関係機関や飼養農家の協力による、優良種畜の供給体制づくりを推進
- ・ 飼養・衛生管理技術の向上（人工ほ乳技術を活用した子めん山羊の損耗防止、分娩前後の母めん山羊の適正な栄養管理等）
- ・ 多様な利活用に関する情報収集・共有、利用目的に応じためん山羊の供給体制づくりを推進